

1. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告概要表(WAM NET掲載用)

グループホーム「マーガレット」

○評価実施期間 平成 18年 7月 1日 から 18年 9月 25日
 ○訪問調査日 平成 18年 8月 1日
 ○評価機関名 特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所

○評価調査者 No.G04028(学識経験者・心理士・キャリアコンサルタント)
 No.G04029(社会福祉士・福祉住環境コーディネーター
 障害者就労支援指導者)

○グループホーム所在地 兵庫県神戸市須磨区戎町1丁目1-13

○開設年月日 平成 14年 12月 1日

○定員 (2)ユニット (18)名

○第三者評価結果

◇全体を通して

- 神戸市営地下鉄または山陽電鉄「板宿」駅より東に徒歩約7分、庶民の暮らしが感じられる町中にある。駅前には大手スーパーと商店街が、ホームの周辺にも商店が多数あり、日常生活には大変便利なところ。
- 建物は鉄骨造5階建。2階と3階、4階と5階を、それぞれ1ユニットとした計2ユニット(定員18人)を運営している。4階～屋上の移動は階段を利用するが、1階～4階はエレベーターで上り下りでき、体調不良その他においても、建物内での行動においての不便は無いと言ってよい。
- 職員は、入居者と生活をともにする、本当の「家族」のような関係を築くべく、入居者との接点を探るためのアプローチを欠かさずに行なっている。世間では、家族間でも垣根が感じられる昨今、ここにそのようなものはない。
- 職員には、中長期的視点に立ち、かつ、責任感のあるケアに取り組んでもらうよう、常勤者を多く採用している。また、看護師の採用も多いことから、医療関係者と独自のネットワークを持っており、緊急時における支援体制が機能的に整備されることとなった。
- 家族の訪問がホーム開設当初に比べてやや減少の傾向がみられる。これは、すでに家族の信頼を得ていることもあってのことだが、今一度、ホーム(入居者はもちろん、職員も含めて)と、家族の接点の機会を検討していただければ有り難い。
- ホーム近所の住民のみならず、町中にあるホームとしての周辺地域の賑やかさも活かし、より多くの方々との交流ができれば、当ホームならではのケアの取り組みも可能かもしれない。それらをきっかけに、広く地域に馴染んだ施設として運営されてゆくことを期待したい。

◇分野・領域別

I 運営理念

番号	項 目	できている	要改善
1	理念の具体化と共有	○	
2	権利・義務の明示		○
3	運営理念等の啓発	○	

特記事項

- 理念は「入居者中心」「誇りを持った暮らしを安心して続ける」「地域交流」。
- 敷金の償却年数や返却方法及び料金表については、もちろん合意はあるものの、取り交わし書類において分かり難くもあるので、改善してほしい。

II 生活空間づくり

番号	項 目	できている	要改善
4	馴染みのある共用空間づくり	○	
5	共用空間における居場所の確保	○	
6	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
7	身体機能の低下を補う配慮		○
8	場所間違い等の防止策		○
9	生活空間としての環境の配慮	○	

特記事項

- 居室内の物は、入居者によって持ち込まれた家具等で占められ、その人の居心地を大切にしたい“暮らし”の場になっている。
- リビングには必要以上に手すりを設置することは避け、家具などの配置を工夫し、手掛かりにしている。
- 居室やトイレ、浴室入口には表札や案内表示が掲げられているが、入居者が、今、建物内のどこに居るかを把握するための表示についても、より工夫してもらえれば有り難い。

Ⅲ ケアサービス

番号	項 目	できている	要改善
10	入居者主体の個別具体的な介護計画		○
11	介護計画の見直し		○
12	個別の記録	○	
13	職員間での確実な情報共有	○	
14	チームケアのための会議		○
15	入居者一人ひとりの尊重	○	
16	入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア	○	
17	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
18	一人で行えることへの配慮	○	
19	身体拘束(行動制限)をしないケアの工夫	○	
20	食事作りへの入居者の参画と一人ひとりにあわせた課題	○	
21	個別の栄養摂取状況の把握		○
22	食事を落ち着いて楽しむことのできる支援	○	
23	個別の排泄支援と羞恥心への配慮	○	
24	個別の入浴支援と羞恥心への配慮	○	
25	理美容院の利用支援	○	
26	プライドを大切にした整容の支援	○	
27	安眠の支援	○	
28	金銭管理の支援		○
29	ホーム内の役割・楽しみごとの支援	○	
30	医療関係者への相談	○	
31	定期健康診断の支援	○	
32	心身機能の維持	○	
33	トラブルへの対応	○	
34	口腔内の清潔保持	○	
35	服薬の支援	○	
36	緊急時の手当		○
37	感染症対策	○	
38	ホーム内に閉じこもらない生活の支援	○	
39	家族の訪問支援		○

特記事項

- 書類に記入者名や日時の表記漏れがあり、改善を心掛けていただきたい。
- 申し送りは、リーダーが個人的に作成したメモによりなされているが、それについての話し合いなどにおいても記録として残していることが少なく、仕組みの見直してみてもどうか。
- 心身の状況を見守りつつも、入居者の自主性を重んじており、入居者の中には、1人でタクシーを利用して教会や歯医者、郵便局等へ行く人もいます。
- 金銭管理に関しては、入居者によっては、ホーム側で金銭を預かっていることもあることから、金銭管理規程の整備が求められる。
- 協力病院を確保しており日中はいつでも医療支援を受けることができ(祝日も相談可能な体制にあり)、夜間は看護師との連携がとれているなど、医療のネットワークは整備されている。
- 緊急時対応や感染症対策について、マニュアルが整備されているが、これらに関する講習の受講など、個々のスキルアップについても取り組んでもらえるとよい。

Ⅳ 運営体制

番号	項 目	できている	要改善
40	法人代表者、管理者、職員の協働	○	
41	入居者の状態に応じた職員の確保	○	
42	継続的な研修の受講		○
43	ストレスの解消策の実施		○
44	退居の支援	○	
45	ホーム内の衛生管理	○	
46	事故の報告書と活用		○
47	苦情への的確で迅速な対応		○
48	家族とのコミュニケーション		○
49	地域の人達との交流の促進		○
50	周辺施設等の理解・協力への働きかけ		○
51	ホーム機能の地域への還元	○	

特記事項

- 各種の研修については、受講の啓蒙に止まっているため、これを受講しやすくなるよう、勤務体制の工夫などをお願いしたい。
- 研修や講習会への出席その他、外部者との接触機会を増やし、スーパーバイザーを外部に求めるなどの取り組みも検討していただきたい。
- 事故報告書やニアミス報告書、今後の課題シートは、いずれも作成している。問題点の記載がやや少ない感じがするので、もう少し多くを書き残しておくことを望みたい。
- 重要事項説明書等には、行政窓口の表記もしておきたい。

2. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告書(WAM NET掲載用)

項目番号 第三者 自己	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
I 運営理念 1. 運営理念の明確化						
1	1	○			理念は「入居者中心」「誇りを持った暮らしを安心して続ける」「地域交流」に置き、家族らしい関係を構築しており、入居者と職員の垣根は低い。また、ホーム内の見やすいところに掲示している。	
2	3		○		「契約書」「重要事項説明書」等に明記されており、入居者及び家族等に説明したうえで同意、署名を得ているが、敷金の償却年数や返却方法及び料金表が分りにくい。	契約関係書類の全般的な見直しと、料金表を別紙にするなど、入居者やその家族にとって分りやすく表記することが求められる。
2. 運営理念の啓発						
3	4	○			自治会に入会し、近隣住民の見学などを受け入れ、地域の子ども達との交流等において、特に地域に理解されるよう、ホームの啓発を行っている。	
I 運営理念 3 項目中 計		2	1			
II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり						
4	5	○			建物は鉄骨造5階建てで、入口横には季節の花が植えられたプランターがこじんまりと置かれている。リビングには机と椅子以外にソファも置かれ、手作りの大きなカレンダーや折り紙細工の入居者作品等が掲げられており、明るく親しみやすい雰囲気がある。	

項目番号 第三者	自己	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
5	6	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			共有空間は狭いため、空間確保が難しいが、階段の踊り場等に椅子を置いており、入居者と話す時もある。また、気のあった入居者同士はお互いに居室を訪問しあっている。屋上は360度見渡すことができ、海も山も見え、洗濯物干し場になっていて、良い気晴らしの場所になる。	屋上が広いので、少し整備して、家庭菜園を作るとよいであろう。
6	7	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			居室の物品は、全て入居者によって持ち込まれた家具等で占められており、その人の生活感漂う居室になっている。	
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり							
7	9	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。 (すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			浴室やトイレに手すりが設置されているが、リビングは無闇に手すりを設置せず、家具等で手掛かりにしている。1階から4階まではエレベーターで移動できるが、4階から5階と屋上までは階段になる。1階から3階までの階段上部に天井が低くなっている部分があり頭等を打つ危険性予防を検討して欲しい。	階段の危険な場所には鉢植えを置くなどをし、できるだけアクセスしにくくなるような工夫が求められる。
8	11	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。 (トイレや部屋の目印等)	○			居室やトイレ、浴室入口には表札や案内表示を掲げているが、入居者への場所認識の工夫を願いたい。	入居者意見を聴いた上で、階数の案内表記を手作りするなどの工夫が求められる。
9	12	○生活空間としての環境の配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮し、換気、温度調節を適切に行っている。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し、冷暖房の調節等)	○			日差しについてはカーテンで調整し、テレビ等の音量についても職員が状況に合わせて調整している。また、適宜換気を行ない、エアコン等も併用して温度調節をしている。	
Ⅱ 生活空間づくり 6項目中 計			4	2			

項目番号 第三者 自己	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント						
10	15	○入居者主体の個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者や家族とも相談しながら入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○		入居時に本人の状態像と家族要望を聞き取り、課題を明らかにした上で、個別具体的な介護計画を作成している。しかし、記入者や日時の表記が無いものが見受けられた。書式の検討も願いたい。	介護計画の提示・説明と共に受諾のサインも必要である。利用者の確認サイン欄の追記と家族への伝え方について工夫が求められる。
11	16	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時見直しを行っている。	○		見直すように努めているが、全ての入居者に対しては見直しができていない。	全ての入居者に対し、随時見直しと定期的見直し及びその開示が求められる。
12	17	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○		入居者の様子は、個人ファイル内のケース記録に日々記入されている。夜間は赤字で記入されている。	
13	18	○職員間での確実な情報共有 介護計画の作成、重要事項の伝達などにすべての職員が関わり、共有ができる仕組みを作っている。	○		「連絡ノート」を作成、活用して毎朝の申し送りにおいて、情報を共有している。	
14	19	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○		リーダーが個人的に作成しているメモを使いながら、日々の申し送り時に、また、職員の食事時間を利用して話し合う時間を持っているが、口頭説明が多く、共通の記録物として活用、保管されていない。	共有すべき情報については、誰もがいつでも確認できるように、記録しておくことが求められる。

項目番号 第三者 自己	項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行						
15	20	○			入居者それぞれの話を傾聴し、他の入居者に対し影響のないことは否定せず、問題となりそうな場合は、場面を変えて、傾聴に努めている。	
16	23	○			入居前後に本人や家族等から聴き取った経験や趣味、生活歴を参考に、後日に話される内容も活かしながら、日々の生活に活かすようなケアを行なっている。	
17	25	○			職員は入居者の表情や話す様子などを観察し、本人の希望や欲求を汲み取るようにしている。自己決定の難しい入居者には選択肢を提示した上で、自己決定への支援を行なっている。	
18	27	○			職員は、入居者それぞれの能力を大まかに把握しており、日常生活において、持っている能力を活かす場面を多く提供している。また、職員は入居者と協働し、一緒に喜び合っている。一人でタクシーを利用して教会や歯医者、郵便局等へ行く入居者もいる。	
19	29	○			職員は身体拘束について正しく理解している。ホーム玄関は施錠しているが、館内は1階から屋上まで自由に移動することができる。ただし、4階から5階と屋上までは階段になるため、屋上まで移動可能な入居者は限定されている。	

項目番号 第三者 自己	項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(2) 日常生活行為の支援 1) 食事						
20	31	○			毎週水曜日は入居者と献立を立て、買物から調理、盛り付けまでを協働している。その他の日は、業者による食事提供となっている。また、買物は一緒に行ける入居者と順番に行っている。	
21	34		○		カロリー計算はしていないが、「食事摂取表」に各入居者の摂取量が記録され、把握されている。1週間に1回の体重チェックで良いと考えている。	以前はカロリー数が把握されていた。業者に協力してもらいながらカロリー数を把握しておくことが望ましい。
22	36	○			○ 食事を落ち着いて楽しむことのできる支援 入居者は茶碗や湯呑み、箸など、馴染みの、または家庭的な食器を使っており、職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	
2) 排泄						
23	37	○			職員は、個々の排泄パターンを大まかに把握し、羞恥心やプライバシーに配慮しながら、さりげなく誘導し介助を行なっている。また、日中と夜間、体調等によって下着等を使い分けている。	
3) 入浴						
24	41	○			○ ゆっくり入浴したい人や、朝に入りたいという希望があり、できる限り実現している。また、夕方までならいつでも入浴が可能であり、入浴実施記録表に記録している。清拭で対応している入居者もいる。	

項目番号		項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
第三者	自己						
4) 整容							
25	43	○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			送迎のみ職員が付き添いを行ない、近隣の理美容院に出かけていることが多い。また、入居前から行きつけていた理美容院への支援も行なっている。	
26	44	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			入居者のプライドを重視し、さりげなくカバーしている。職員は入居者の好みを理解しており、TPOにあわせて、衣類を選び、季節や天候、気温等を伝えながら、その人らしい服装を楽しめるように支援している。	
5) 睡眠・休息							
27	47	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。	○			職員は、入居者それぞれの睡眠パターンをおおまかに把握しており、夜間、眠れない入居者については眠くなるまで自由に過してもらい、夜間徘徊者に対しては、無理に徘徊を止めない対応をしている。	
(3) 生活支援							
28	51	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、家族等とも相談して可能な限り日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。ホームが代行管理している場合は定期的に家族に出納状況を報告している。		○		外出時に自分で支払えるよう支援をしている。ホームは原則として金銭管理をしないが、一部預かっている入居者もある。金銭管理規程は整備されていない。	法人として、金銭管理規程の整備が求められる。
(4) ホーム内生活拡充支援							
29	53	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			日常生活において、食器洗い、床掃除、洗濯物たたみ、ゴミ捨て、花の水やり、接客等の役割をほとんどの入居者が持っている。また、季節行事は年間行事として組み入れ、レクリエーション記録帳に記録されている。	

項目番号		項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
第三者	自己						
(５) 医療機関の受診等の支援							
30	55	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健師、看護師等)	○			日中はいつでも対応可能な協力病院を確保し、祝日も相談可能な体制にある。夜間は看護師との連携がとれている。他に精神科と神経内科の医師の協力が得られる。内科と歯科については往診が可能である。	提携医療機関は 医療法人三友会若宮病院
31	61	○定期健康診断の支援 年に最低１回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			週に1回の往診と年に1回の定期健診を提携医療機関において実施している。	
(６) 心身の機能回復に向けた支援							
32	63	○心身機能の維持 認知症の人の心理状態の特徴や身体面の機能低下の特徴を理解し、五感への働きかけ、見当識維持の工夫、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			職員は、入居者それぞれの精神症状を把握しており、その人にあった声かけをし、日常生活の中でその人にあった役割を取り入れている。また、買物、カラオケ、散歩といった活動で心身機能の低下防止を図っている。	
(７) 入居者同士の交流支援							
33	65	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因(体調不良、相性等)を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			職員は、入居者同士の相性を把握し、椅子に名前を書いて席を固定するなど、トラブルの未然防止に努め、入居者と入居者との間を取り持つように支援している。トラブルになった場合は、職員が仲に入り、当事者双方の話を聞いて治めている。	
(８) 健康管理							
34	67	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			朝と寝る前の口腔ケアを行ない、職員が介助している。また、口腔内でトラブルが発見された場合は、歯科医への通院介助を行なっている。	

項目番号 第三者	自己	項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
35	70	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			入居者それぞれの薬を入居者の手の届かない場所1ヶ所に保管、管理している。また、薬剤情報はいつでもすぐ見ることができる場所に置き、確認している。	
36	72	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)		○		日中は看護師の指示の下に対応している。しかし、職員に対して特別に時間を取っての講習等は行っていない。	定期的に全職員が普通救命講習等を受けることが望ましい。
37	73	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			感染症対策マニュアルが整備され、看護師にはいつでも確認することができる体制にある。	
3. 入居者の地域での生活の支援							
38	77	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			ホーム外への買物や近所の公園への散歩は職員付添いのもと日常的に行ない、他ホームを訪問することもある。	
4. 入居者と家族との交流支援							
39	81	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)		○		月に1回送付する請求書に行事案内を同封し、積極的に行事等への参加を呼びかけている。しかし、どの家族も訪問回数は減少している。	家族等に対し、その人の現在の様子を知らせる一筆箋なども同封し、さらなる積極的な訪問への呼び掛けを強化して欲しい。
Ⅲ ケアサービス 30項目中 計			23	7			

項目番号 第三者 自己		項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
IV 運営体制 1. 事業の統合性							
40	83	○法人代表者、管理者、職員の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、職員の意見も反映させながら共に運営に取り組んでいる。	○			代表者⇒管理者⇒ユニットリーダー⇒リーダー⇒職員の流れで理念の浸透がなされ、職員意見は逆の流れで反映できるようになっており、共に運営に取り組んでいる。	
、							
41	87	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			入居者の状態によって勤務時間をシフトしたり、食事介助が必要な時は延長勤務をするなど、臨機応変な勤務体系にしている。また、できるだけ常勤者と看護師を多く採用している。	
42	89	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。		○		外部研修の案内をするなど、研修受講を啓蒙するに留まっている。	採用時研修をはじめ、研修は継続的に行なっていくことが求められる。また、研修を受講しやすい勤務体制にする工夫も求められる。
43	91	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)		○		主に代表者と管理者が業務上の悩みを聞いており、職員を含めた親睦会をもち、職員同士は個々に親睦を図っているが、外部者との接触機会は少ない。	研修や講習会への出席などで外部者との接触機会を増加させるとともに、スーパーバイザーを外部に求めるなどの取り組みにも期待したい。
3. 入居時及び退居時の対応方針							
44	95	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			入居者、家族、ケアマネージャー等を交えて、関係機関と事前に話し合いの場を持ち、本人や家族のニーズを捉え、退去先の選択を行なっている。	

項目番号 第三者 自己	項 目	でき て い る	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4. 衛生・安全管理						
45	98	○			職員は、手洗い、うがいを励行し、布巾・まな板・包丁などの台所用品も夜勤者の役割として、毎日消毒を行なっている。注意を要する物品については、直接目に触れない所に保管している。	
46	102		○		医療処置が必要になったものを事故報告書に、そこまで至らなかった事故をニアミス報告として書類を作成し、今後の課題シートも作成しているが、問題点の取り上げ例が少ない。また、ヒヤリハット活動は行なっていない。	ホーム全体で、事故あるいは事故になるであろう行動に対する意識を見直して欲しい。ヒヤリハット活動は、事故未然防止への頭の体操としてとらえ、法人全体として日々継続的に取り組んでいかれることを期待する。
6. 相談・苦情への対応						
47	106		○		家族等から直接電話で相談されたり、本人からの希望が寄せられ、その都度迅速に対応している。また、重要事項説明書にホーム窓口と国民健康保険団体連合会窓口は記載されているが、行政窓口が記載されていない。	重要事項説明書等に、行政窓口の表記が求められる。
7. ホームと家族との交流						
48	107		○		行事写真は家族に郵送し、行事などへの参加協力や、電話や手紙で訪問のお願いをしているが、なかなか家族等の協力が得られていない。また、通信は発行していない。	ホーム通信の発行や、請求書送付時にその人向けに職員の一言コメントを入れるなどの工夫が求められる。
8. ホームと地域との交流						
49	112		○		人通りのある道沿いに椅子を出し、犬の散歩中で立ち寄ったり、小学生が遊びに来るように努めている。自治会には入会しているが、具体的に積極的な交流促進活動は展開されていない。	介護保険改正法において、運営推進会議の設置が義務付けられていることから、これらの活動をきっかけとして、ホームとしての積極的な交流活動に期待したい。

項目番号		項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
第三者	自己						
50	114	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)		○		酒屋や美容院へは日々の生活の中で協力を得、消防とは防火訓練において付き合いがあるが、特に教育機関に対しての働きかけは積極的にできていない。	近隣小中学校へ積極的にアピールし、トライやるウィークを受け入れるなど、外部の眼を導入することによってホームを活性化して欲しい。
51	115	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、認知症ケアに関わる知識・技術等を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)	○			家族やボランティアの見学を受け入れ、ヘルパー1級実習生や他のグループホームの職員研修を受け入れている。	地域の方の介護相談を受けたり、出前講座を開くなど、さらに積極的な地域開放の実践をされると良い。
IV 運営体制 12項目中 計			5	7			

- (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。